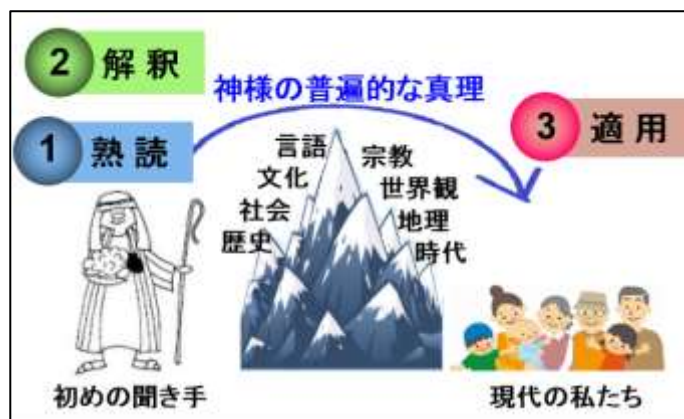


## ルツ記

ルツ記について ルツはモアブ出身の女性ですが、救い主イエス・キリストの系図(マタイの福音書1章)に出てくる女性の一人です。ルツ記は、彼女がどのようにしてイスラエルの民に加えられたか、そして、どうしてルツの名前が救い主の系図に含まれることになったかを明らかにしています。また、ルツ記を読むと、神様が旧約聖書の時代からユダヤ人だけでなくユダヤ人以外の人々(異邦人)にも、救いの手を差し伸べていたことが分かります。ルツ記には、「贖い人(買い戻す権利を持つ人/家を絶やさないようにする責任ある人)」という重要な言葉が出てくるので、この学びでは、「贖い人」についても学んでいきます。

聖書の読み方 聖書は、元々は今から四千年から二千年前の聞き手に対して書かれました。当時の彼らの生活と、現代の日本に住む私たちの生活とは様々な違いがありますから、聖書に書かれていることを正しく理解するためには、いつくもの違いを乗り越える工夫が必要となります。



聖書を読むためのステップは、熟読、解釈、適用の三つです。

- ① 熟読: 一番大切なことは御言葉をじっくりと読み、御言葉が語る内容を客観的に把握することです。色鉛筆を片手にじっくりと読みながら、キーワードに印を付けて下さい。そして、その箇所に書かれていることを、初めの聞き手になった気持ちでしっかりと読み進めましょう。ルツ記のような物語を読む時は、特に登場人物に注意して、内容を整理しながら読んで下さい。
- ② 解釈: その次にするのが、初めの聞き手が理解した御言葉の意味を探ることです。聖書を読んでいて分からない言葉が出て来たら、まずは出来る限り聖書から答えを得るようにしましょう。聖書を辞書のように使って他の箇所を読み、今読んでいる箇所の意味を探っていきます。(このように、参照聖句を読むことで聖書の理解を深める方法を「帰納的聖書の読み方」といいます。) また、必要な時は、聖書辞典を使って歴史的背景等を調べ、初めの聞き手がどのように理解したかを探ります。
- ③ 適用: 最後に、読んでいる箇所から、現代の私たちにも通用する真理、つまり、神様の普遍的な真理をつかみます。そして、それをどのように自分の生活に活かすかを考えて実行して下さい。

では、ルツ記の学びを始めましょう。

ルツ記第一章

1. お祈りで始めましょう。聖霊の導きによって、私たちが御言葉を理解出来ますように。
2. まずは、第一章を通して読んで下さい。

熟読 しっかり読みましょう。

3. 5Ws1H (いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を考えつつ、印を付けて読んで下さい。

- a) 時間に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- b) 場所に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- c) 「主/神」に印を付けながら読んで下さい。
- d) 「ナオミ」に印を付けながら読んで下さい。  
(代名詞にも忘れずに印を付けましょう。)
- e) 「ルツ」に印を付けながら読んで下さい。
- f) 5Ws1H を整理しましょう。

印の付け方のコツ:

時間には緑色で○を書き、場所には緑色の二重線を引きます。このように、「いつ、どこで」という基本的な情報に緑色を使うことで、他の色を登場人物やキーワードに当てることが出来ます。

- いつの時代ですか(1:1)。
- どこで: 場所を地図で確認して下さい。
- 誰: 登場人物について分かったことを、箇条書きして下さい。

エリメレク \_\_\_\_\_

ナオミ \_\_\_\_\_

マフロン \_\_\_\_\_

キルヨン \_\_\_\_\_

ルツ \_\_\_\_\_

オルパ \_\_\_\_\_

- 何がどのように起きましたか、なぜですか。簡単にまとめて下さい。

4. 内容を整理しましょう。段落はどこで分けられますか。段落ごとの内容をまとめて、聖書の余白に書き込んで下さい。
5. この章のテーマは何ですか。(映画の題名のように簡単なテーマを付けて下さい。後でこのテーマを見たら、何が書いているかすぐに思い出せるものにして下さい。) \_\_\_\_\_

### **解釈 当時の事を探って、意味を理解しましょう。**

6. モアブについて: 繰り返されている言葉、「モアブ」にも印を付けながら、もう一度一章を読んで下さい。モアブは「イスラエル」と同様に、地名であると同時に民族の名前でもありました。
  - モアブはイスラエルとはどのような関係にありましたか。イスラエルの民は、モアブの民のことをどう思っていましたか。下記の参照聖句を読んで答えて下さい。
    - 創世記 19:30-38 (ロトは、イスラエルの父アブラハムの甥です。15 ページの系図を参照してください。)
    - 申命記 23:4-5(新共同訳)/23:3-4(新改訳)  
(ペオルの子バラムのしたことは、下記の二箇所に出てきます。)
    - ヨハネの黙示録 2:14 (バラムがモアブの王に何を教えたかに、注意して下さい。)
    - 民数記 25:1-5 (バラムが教えたことの結果が書かれています。)
  - モアブの人たちが礼拝していたのはケモシュという戦いの神で、彼らはケモシュに全焼のいけにえとして自分たちの子供をささげていました。命の創造主であられる神様は、ケモシュも含めあらゆる異教の神々をイスラエルの民が拝むことを厳しく禁じました。
  - モアブの女ルツは、イスラエルの民からどのような扱いを受ける可能性がありましたか。

7. 未亡人について：現代の日本では、女性が自分の仕事を持って経済的に自立する道がありますが、ルツの時代は状況が全く違いました。当時の未亡人にはどのような生きる道があったかを見ていきましょう。

- 下記の参照聖句を「兄弟」に注意しながら読んで下さい。そして、未亡人に対し、夫の兄弟がすべきことが何だったかを考えて下さい。

➤ 申命記 25:5-6

- このような結婚のことを、レビレート婚と呼びます。レビレート(levirate)は、ラテン語の夫の兄弟(levir)から派生した言葉です。夫の死後、未亡人が夫の兄弟の一人と再婚する婚姻形態のことで、日本でも弟直しとか、つぎ縁と称して昔は各地で行われていました。(デジタル大辞泉の解説 <http://kotobank.jp/word/レビレート>より)

では、上記のことからナオミはなぜ 1:11-13 のようなことを言ったと思いますか。

8. オルパの決断はどのようなものでしたか。彼女はどの民、どの神に帰って行きましたか。

9. では、ルツの決断はどうでしたか。

モアブの女ルツがナオミについて行く決断は、ルツにとって何か得となることでしたか。モアブの女であったにもかかわらず、ルツはなぜナオミについて行くと言ったのでしょうか。(1:16-17)  
ルツとオルパの違いは何でしたか。

**適用 神様の真理を生活に活かしましょう。**

10. 1:8-18 のナオミとルツの会話をもう一度読んで下さい。彼女たちはお互いのことをとても大切にしていました。特にルツのナオミに対する姿勢から、私たちは何を学べるでしょうか。

参考に、ルツ記に出てくる名前の意味をここで紹介します。

エリメレク:	我が神は王
ナオミ:	快い、甘い、楽しさ
マラ:	苦い
マフロン:	病気がち
キルヨン:	弱々しい
ルツ:	友情、友
オルパ:	うなじ、振り向く
ベツレヘム:	パンの家
ボアズ:	機敏、力

彼女たちの様に自分の家族に接することが出来ていますか。どうしたらそう出来るでしょうか。

**ルツ記第二章**

1. お祈りで始めましょう。神様がどのようなお方か、もっと知ることが出来ますように。
2. まずは、第二章を通して読んで下さい。

**熟読 しっかり読みましょう。**

3. 5Ws1H (いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を考えつつ、印を付けて読んで下さい。
  - a) 時間に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
  - b) 場所に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
  - c) 「主/神」に印を付けながら読んで下さい。
  - d) 「ボアズ」に印を付けながら読んで下さい。(代名詞にも忘れずに印を付けましょう。)
  - e) 「ルツ」に印を付けながら読んで下さい。
  - f) 「厚意(新共同訳) / 親切/好意(新改訳)」に印を付けながら読んで下さい。
  - g) 「家を絶やさないようにする責任のある人(新共同訳) / 買い戻しの権利(新改訳)」に印を付けながら読んで下さい。
  - h) 5Ws1H を整理しましょう。
    - いつ
    - どこで
    - ルツは何をしましたか。誰に会いましたか。それは、計画されたことですか。

- ボアズはどのような人で、何をしましたか。彼について分かったことをすべて書き出して下さい。

ボアズとルツとはどのような関係でしたか。なぜ、ボアズはルツに親切だったのでしょうか。(この章に書かれていることから答えて下さい。)

4. 内容を整理しましょう。段落はどこで分けられますか。段落ごとの内容をまとめて、聖書の余白に書き込んで下さい。
5. この章のテーマは何ですか。 \_\_\_\_\_

**解釈 当時の事を探って、意味を理解しましょう。**

6. 落穂拾い：ルツの状況について理解するために、下記の参照聖句を読んで次の質問に答えて下さい。
  - レビ記 19:9-10
  - 申命記 24:17-22
  - 申命記 15:7-11

彼女はなぜ落ち穂を拾いに行ったのでしょうか。

イスラエルの民は、神様からどのような命令を受けていましたか。

それはなぜですか。

7. 一章と二章から、ルツが置かれていた社会的な立場について何か分かりましたか。

彼女は自分の事をどのような存在だと言っていますか(2:10)。

6の参照聖句から、ルツの様な立場の人の生活について分かったことを書いて下さい。

**適用 神様の真理を生活に活かしましょう。**

8. ルツは社会的に不利な状況にいましたが、姑のナオミのために献身的に働きました。ルツは何に希望を置いていたと思いますか。

もし、皆さんがルツの立場ならどうしますか。何に希望を置きますか。

皆さんがもしボアズの立場だったら、モアブの女ルツにどのように対応しますか。

9. ルツは、「自分に厚意を示してくれる人について落穂拾いをしたい」とナオミに言って出かけ、実際には望んでいた以上の厚意を人々から受けることが出来ました。

なぜだと思いますか。

神様の導きがあったと思いますか。

## 買い戻す権利について

三章と四章に進む前に、ルツ記のキーワードの「買い戻す権利」について、学んでみましょう。

注: ヘブライ語の「ガアル」という動詞とその名詞形の「ゴエル」は、日本語に訳す時一言で訳せないため、「家を絶やさない、買い戻す、贖う」、「家を絶やさない責任ある人、買い戻しの権利のある人、贖い人」などと訳されています。

- 「買い戻す」とは、聖書では「贖い(あがない)」という特別な言葉で表現されることがあります。この「贖い」とは、「土地、奴隷、捕虜などを、代価を支払って買い戻すことを意味」<sup>1</sup> していました。この言葉から派生した言葉が、ルツ記に出てくる「家を絶やさないようにする責任のある人(新共同訳) / 買い戻しの権利のある親戚(新改訳)」で、「近親者としての義務を遂行する者」<sup>2</sup> という意味があります。この親戚の義務は下記の四つでした。<sup>3</sup>
  - 1) 寡婦を娶って子孫をのこすこと (ルツ 3:12-13)
  - 2) 縁者で奴隷となった人を買戻すこと (レビ 25:48、49)
  - 3) 縁者の売られた土地を買戻すこと (レビ 25:25、ルツ 4:4)
  - 4) 被害者に代わり、加害者に対して復讐すること (民数記 35:19-27、ヨシュア 20:3)
- 土地とその所有者の部族との関係に注意しながら、下記の参照聖句を読み、なぜ土地を買戻すことが大切なのか考えて下さい。

➤ 民数記 27:8-11

➤ 民数記 36:7-9

➤ レビ記 25:23-28 (口語訳)

- 23 地は永代には売ってはならない。地はわたしのものだからである。あなたがたはわたしと共にいる寄留者、また旅びとである。
- 24 あなたがたの所有としたどのような土地でも、その土地の買いもどしに應じなければならない。
- 25 あなたの兄弟が落ちぶれてその所有の地を売った時は、彼の近親者がきて、兄弟の売ったものを買いもどさなければならない。
- 26 たといその人に、それを買いもどしてくれる人がいなくても、その人が富み、自分でそれを買いもどすことができるようになったならば、
- 27 それを売ってからの年を数えて残りの分を買い手に返さなければならない。そうすればその人はその所有の地に帰ることができる。
- 28 しかし、もしそれを買いもどすことができないならば、その売った物はヨベルの年まで買い主の手にあり、ヨベルにはもどされて、その人はその所有の地に帰ることができるであろう。

注: ヨベルの年とは、7年に一度の安息の年を7回重ねて第 50 年目に守られた解放の年でした(レビ 25 章)。そして、この年が来ると、すべての奴隷が解放され、売られた土地の権利はもとの所有者に返還されなければならないませんでした。<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 新共同訳聖書 聖書辞典(新教出版、2013) 4.

<sup>2</sup> Ibid.

<sup>3</sup> Ibid.

<sup>4</sup> Ibid., 498.



- レビ記 25:47-49、55（この箇所は自分の兄弟が身を売った時、誰が買い戻すべき、その理由を述べています。）

（口語訳）

- 47 あなたと共にいる寄留者または旅びとが富み、そのかたわらにいるあなたの兄弟が落ちぶれて、あなたと共にいるその寄留者、旅びと、または寄留者の一族のひとりに身を売った場合、
- 48 身を売った後でも彼を買いもどすことができる。その兄弟のひとりが彼を買いもどさなければならない。
- 49 あるいは、おじ、または、おじの子が彼を買いもどさなければならない。あるいは一族の近親の者が、彼を買いもどさなければならない。あるいは自分に富ができたならば、自分で買いもどさなければならない。
- 55 イスラエルの人々は、わたしのしもべだからである。彼らはわたしがエジプトの国から導き出したわたしのしもべである。わたしはあなたがたの神、主である。

なぜ、土地や人々の買い戻しをする必要があったのでしょうか。

誰がこの買い戻す権利を持ちましたか。

イスラエルの民も約束の地も、実は神様のものです(レビ記 25:23、55)。ですから、神様の民も土地も永遠に売り渡すことはできませんでした。イスラエルの民には、神様から譲り受けた土地を部族ごとに分け、管理し、代々受け継いで行く責任があったのです。神様はそのための律法をイスラエルの民に授けました。貧しさのゆえに奴隷として身を売った人や売却された土地を取り戻すため、同族の買い戻す権利を持つ人が「贖い人」として代価を支払い、奴隷となった兄弟を解放したり、土地を買い戻したりするように命じたのです。（買い戻せない場合でも、ヨベルの年にはイスラエル人の奴隷は解放され、土地も元の所有者に戻りました。）「買い戻す権利」と訳されてはいますが、本人が買い戻す場合以外は事実上「救済の義務」で、買い戻すことで贖い人が利益を得ることはありませんでした。

上記のようにお金による救済の場合だけでなく、命に関わる時にも贖い人が立てられました。子どもを残さずにある人が亡くなった場合は、その人の兄弟が贖い人となり、未亡人と結婚して子どもをもうけ、死んだ兄弟の名が絶えないようにしました。また、殺人が起きた場合は、殺された人の兄弟か親戚が贖い人となり、殺人犯の死刑執行人となりました。

このように贖い人はイスラエルの社会で重要な役割を果たしたのです。

贖い人の制度をイスラエルに与えた神様は、どのようなお方だと思いますか。

皆さんは贖い人を必要としていますか。

ルツ記第三章

1. お祈りで始めましょう。買戻しの権利を持つ人(贖い人)について、よく理解出来ますように。
2. まず、第三章を通して読んで下さい。

熟読 しっかり読みましょう。

## 3. ルツ記 3:1-5

5Ws1H(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を考えつつ、印を付けて読んで下さい。

- a) 時間に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- b) 場所に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- c) 「ナオミ」に印を付けながら読んで下さい。(代名詞にも忘れずに印を付けましょう。)
- d) 「ルツ」に印を付けながら読んで下さい。
- e) 「ボアズ」に印を付けながら読んで下さい。
- f) 5Ws1Hを整理しましょう。

- この出来事はいつ頃のことですか。
- どこ
- ナオミはルツに何を指示しましたか。なぜですか。ナオミの動機は何ですか。
- ルツはどうしましたか。

## 4. ルツ記 3:6-13

5Ws1H(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を考えつつ、印を付けて読んで下さい。

- a) 時間に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- b) 場所に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- c) 「主/神」に印を付けながら読んで下さい。
- d) 「ルツ」に印を付けながら読んで下さい。(代名詞にも忘れずに印を付けましょう。)
- e) 「ボアズ」に印を付けながら読んで下さい。
- f) 「家を絶やさないようにする責任のある人、責任(新共同訳)」、「買戻しの権利、親戚の役目、買戻す、買戻す者(新改訳)」に同じ印を付けながら読んで下さい。(ヘブライ語では、これらの言葉はすべて同じ言葉から派生しています。)
- g) 5Ws1Hを整理しましょう。

- いつ
- どこ
- ルツは何をしていますか。
- それに対するボアズの反応はどのようなものですか。

- 彼はルツを買い戻すことを承諾しましたか。
  
- モアブの女であるルツのことを、ベツレヘムの人々はどのように思っていましたか。なぜでしょうか。
  
- 彼は何を約束しましたか。なぜですか
  
- ところで、「ルツを買い戻す」とは、具体的には何を意味しますか。

5. ルツ記 3:14-18

5Ws1H (いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を考えつつ、印を付けて読んで下さい。

- a) 時間に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- b) 場所に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- c) 「ルツ」に印を付けながら読んで下さい。(代名詞にも忘れずに印を付けましょう。)
- d) 「ボアズ」に印を付けながら読んで下さい。
- e) 「ナオミ」に印を付けながら読んで下さい。
- f) 5Ws1Hを整理しましょう。

- いつ
  
- どこ
  
- ボアズは何をしましたか。なぜですか。
  
  
- ナオミはそのことをどのように受け止めましたか。

6. 三章の内容を整理しましょう。段落ごとの内容をまとめて、聖書の余白に書き込んで下さい。

7. この章のテーマは何ですか。\_\_\_\_\_

**解釈 当時の事を探って、意味を理解しましょう。**

- 8. ルツの言葉: ルツは、「あなたのおおいを広げて、このはしためをおおって下さい(9節)」とボアズに頼みます。エゼキエル書 16:8を読んで、ルツの言葉の意味を考えて下さい。

9. 親切/真心/真実: ルツの願いに対してボアズはこう返事します。「ボアズは言った、「娘よ、どうぞ、主があなたを祝福されるように。あなたは貧富にかかわらず若い人に従っていくことはせず、あなたが最後に示したこの親切は、さきに示した親切にまさっています。(3:10)」彼の言う「親切(口語訳)/真心(新共同訳)/真実(新改訳)」とは何を意味するのでしょうか。

「親切(口語訳)/真心(新共同訳)/真実(新改訳)」はヘブライ語では「ヘセツ」といい、誠実さ、愛情、優しさ、親切と幅の広い意味を持ち、英語では lovingkindness と訳されます。一章と二章でルツは誰に対して愛情を示していますか。これが「先に示した親切」です。

三章でルツが誠実に求めていることは何ですか。これが「最後に示したこの親切」です。

### 適用 神様の真理を生活に活かしましょう。

10. ルツは「私におっしゃることはみないたします(3:5)」とナオミに答えました。ルツは彼女の姑にとても素直に従っています。なぜ、ルツにはこのような行動がとれたのでしょうか。

ルツの態度から何を学びましたか。彼女のどのようなところを見習いたいと思いますか。それはどうしたら可能でしょうか。

ナオミは、ルツが幸せになるためにはボアズに嫁ぐのが一番良いと考えました。でも、残念ながら彼は一番近い贖い人ではありませんでした。そこで、ナオミは、ルツ本人からボアズに「責任を果たしてほしい、贖って欲しい」と直接願う(求婚する)ことを思いつきます。

ルツはナオミの言うとおりに晴れ着をまとい、結婚の準備が整った若い女性としてボアズに自分の贖いを願い出ます。この頃までにはナオミに対するルツの献身的な愛情はベツレヘムの人々の知るところとなり、イスラエルの民はモアブの女ルツを受け入れていました。姑ナオミを愛し(先に示した親切)、神様の決められた律法に従い贖いを願う(最後に示したこの親切)ルツを、ボアズは「立派な婦人(新共同訳)しっかりした女(新改訳)(3:11)」と賞賛します。この言葉はヘブライ語では、箴言 31:10-31 でたたえられている「有能な妻(新共同訳)しっかりした女(新改訳)」と同じ言葉です。(ちなみに、ヘブライ語の聖書では、箴言の後にルツ記が続き、その後には雅歌が続きます。日本語の聖書の並びと違うのです。)

ナオミもルツも、自分を贖ってくれる人が誰か分かっていました。そして、その贖い人に自分たちの買い戻しを申し出たのです。皆さんは自分の贖い人が誰か知っていますか。

**ルツ記第四章**

1. お祈りで始めましょう。神様の恵みの大きさと、ご計画の素晴らしさを知ることが出来るように。
2. まず、第四章を通して読んで下さい。

**熟読 しっかり読みましょう。**

## 3. ルツ記 4:1-12

5Ws1H (いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を考えつつ、印を付けて読んで下さい。

- a) 時間に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- b) 場所に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- c) 「ボアズ」に印を付けながら読んで下さい。(代名詞にも忘れずに印を付けましょう。)
- d) 「ナオミ」に印を付けながら読んで下さい。
- e) 「ルツ」に印を付けながら読んで下さい。
- f) 「親戚の人、責任を果たす、責任を負う、引き取る、果たすべき責任(新共同訳)」、「親戚の役目、買い戻す、買い戻す者(新改訳)」に同じ印を付けながら読んで下さい。
- g) 5Ws1H を整理しましょう。

- この出来事はいつのことですか。
- 門とは、町の行政上の決め事や裁判をする公の場所でした。
- ボアズは何をしていますか。なぜですか。
- その場には誰がいますか。
- ボアズは最終的にどのような責任を果たしましたか。それは何のためですか。

## 4. ルツ記 4:13-22

5Ws1H (いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を考えつつ、印を付けて読んで下さい。

- a) 時間に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- b) 場所に関する言葉に印を付けながら読んで下さい。
- c) 「主/神」に印を付けながら読んで下さい。
- d) 「ボアズ」に印を付けながら読んで下さい。(代名詞にも忘れずに印を付けましょう。)
- e) 「ルツ」に印を付けながら読んで下さい。
- f) ルツの産んだ子どもに印を付けながら読んで下さい。(代名詞にも忘れずに。)
- g) 「家を絶やさぬ責任のある人(新共同訳)/買い戻す者(新改訳)」に印を付けながら読んで下さい。

h) 5Ws1H を整理しましょう。

- いつ
- どこ
- 誰が生まれましたか。
- 女たちの反応はどのようなものですか。何と書いていますか。
- ルツ 4:14 のナオミに神様から与えられた「家を絶やさぬ責任のある人(新共同訳)/買い戻す者(新改訳)」とは、誰のことですか。

5. 四章の内容を整理しましょう。段落はどこで分けられますか。段落ごとの内容をまとめて、聖書の余白に書き込んで下さい。

6. この章のテーマは何ですか。\_\_\_\_\_

### 解釈 当時の事を探って、意味を理解しましょう。

7. 時代背景: ナオミに最も近い家を絶やさぬ責任のある人(新共同訳)/買い戻す者(新改訳)は、どのような理由で権利の行使をしませんでしたか。(このように贖い人がその責任を負うことを拒否することもあったようです。)

愛情をもってお互いにいたわり合ったナオミとルツ、神様の律法に従い、貧しい寡婦となったナオミとルツを守るためにルツを贖い、ナオミの土地も贖ったボアズ。そして、ボアズの決断を祝福するベツレヘムの人々。ルツ記にはこのように正しい人々が登場しますが、この時代のイスラエルの民は、ベツレヘムの人たちのように正しい人々ばかりではありませんでした。1:1で「さばきつかさが治めていたころ」とありますが、当時の人々は、「そのころ、イスラエルには王がなかったので、おのおの自分の目に正しいと見るところをおこなつ(士師記 21:25)」ていました。つまり、神様の律法に従わず、自分の良いと思うことする無秩序な時代でした。時間がありましたら、士師記の 19 章を読んでみて下さい。ボアズたちとは対照的な人々の有様が記録されています。

8. 系図: 16 のページのボアズとルツの家系図を完成して下さい。ボアズとルツには誰が生まれましたか。その子の子孫には誰がいますか。

ボアズの母親は誰でしたか(マタイの福音書 1:5)。彼女はどこの出身でしたか。元々イスラエルの民でしたか。時間があれば、ヨシュア記の 2 章と 6:22-25 を読んで下さい。

**適用 神様の真理を生活に活かしましょう。**

9. ルツ記の学びから、皆さんはどのような真理を見つけましたか。その真理をどのようにしたら、皆さんの生活に活かしていけますか。

たとえモアブの出身であっても、ルツは「イスラエルの民は私の民、イスラエルの神は私の神」とイスラエルの神様に対する信仰を告白し、ナオミについてベツレヘムにやって来ました。ボアズという贖い人のおかげで、夫も息子たちも亡くしたナオミはオベデという跡取り(家を絶やさぬ責任のある人、買い戻す者)を授かり、ルツは真の贖い人イエス・キリストの系図に名を連ねることが出来ました。

私たちの贖い人はイエス様です。

イエス様は私たちのために、何をして下さったでしょうか。ルツ記の学びを振り返って考えてみて下さい。

男 女

ボアズとルツの家系図

